2019年　ニュージーランド旅行記

オークランド・クラストチャーチ・クイーンズタウン
8日間の旅行を楽しみました！

旅行期間　2019/2/10～2/17　記:西村静雄

　初めて、南半球のニュージーランドを旅しました。季節は日本と反対で夏の盛りで、旅行者も多く、大層賑わっていました。特にアジア圏らしい人達が多く訪れていました。今回も大学時代の山のサークルの仲間８人（２組の夫婦を含めて）で楽しみました。今回のツアーの参加者は３８名で、満員のツアーでした。私が予約したのは、半年前の２０１８年の８月で、一緒に行った仲間もすぐに予約しましたが、満員となり、キャンセル待ちをするほどの人気のツアーでした。運よくキャンセルが出ましたので、無事に皆で楽しむことが出来ました。

　宿泊したホテルは、特別有名なホテルでもなく、中の上の感じでした。しいて言えば、マウントクックの近くのハミテージホテルは地方にしてはいいホテルでした。
　今回のツアーでは、ホテルの朝夕食もさることながら、昼食会場は殆どがビュフェ方式になっていました。どこも日本と同じで人件費の削減に取り組んでいるようでした。食事面でびっくりしたのは、ミルフォードサウンドの観光船で出た昼食は日本の幕の内弁当でした。日本語の箸包み、お料理もお寿司、魚の煮物、味噌汁にメロンも入っていました。とても懐かしく、美味しく頂きました。

　基本の時差が３時間とサマータイムで１時間、計４時間の時差がありました。ホテルのロビーでのＷｉ-Ｆｉは１時間無料が殆どで、客室では１日１０ドルとちょっと高目でした。また、今回も１回も傘を差さず、全日晴れて、いい季節の南半球を楽しめました。

◇１日目

　成田で皆と合流し、オークランドまで直行便のニュージーランド航空で、１０時間３０分のフライトでした。座席も仲間と一緒なので、気遣いなしに着席はしましたが、やはり長かった。

◇２日目

　オークランドに到着後、専用バスでロトルアに向いました。５時間のバス旅です。途中、ワイトモ鍾乳洞と土ボタルの見学でした。鐘乳洞内は撮影が禁止されていました。ニュージーランドの自然環境保護の姿勢を垣間見ました。日本では考えられない事を実感しました。

◇３日目

　ホテルの朝食は、野菜が少なかったですが、とても美味しく満足でした。

ロトルア湖畔のガバメント・ガーデン

　食事後、バスでレッドウッドフォレストに向かいました。大きな杉の大木が林立して、森林浴を愉しめました。

レッドウッドフォレストで森林浴体験

その後、約２時間半で世界遺産のトンガリロ国立公園に着きました。幅１０M程度の狭い川に毎秒２２万リットルの水が流れ落ちていくフカ滝は圧巻でした。

タウポ湖から流れ落ちる毎秒 22 万リットルもの水量のフカ滝

また水源のニュージーランド最大の湖、タウポ湖に立ち寄りました。広い平原の中にあるベイビュー・シャトートンガリロで昼食後、散策し、バスで２時間半移動して、天然温泉や豪快に吹き上げる間欠泉のテプイアに到着。

２４時間、泥がふつふつと湧く光景のマッドプール

原住民のマオリ族のアングリカン教会の彫刻も見ることが出来ました。
ホテルで夕食時にはマオリハンギデナーを鑑賞致しました。我々も舞台に上がり、マオリ族の伝統的な踊りを一緒に楽しむことが出来ました。

夕食時にマオリ族の勇敢なパフォーマンスを体験

◇４日目

いよいよ南島に向かいます。空路でクライストチャーチへ行き、空港近くのゴルフ場のレストランで昼食後、市内に行きました。地震でも有名になった教会の近くにある「紙の大聖堂」を見学。裏庭には、地震で亡くなった人の数だけ白いペンキで塗られた数多のイスがありました。一際目を惹いたのは乳児用の手提げ籠でした。

白ペンキで塗った椅子、乳児用手提げ籠もあった

その後は約５時間のバス旅です。車窓からは、羊、牛、馬の放牧も見受けました。途中から、世界遺産のマウントクック国立公園に入りました。湖水が真っ青で、水温が８度程度の氷河湖のテカポ湖、善き羊飼いの教会に立ち寄りました。

テカポ湖、氷河水が周辺の岩石を溶かして流れ込み、独特の淡い青色

善き羊飼いの教会、祭壇の窓から雄大な景色を堪能

牧羊犬の像、開拓民の手足となり大活躍した従順さがたたえられている。

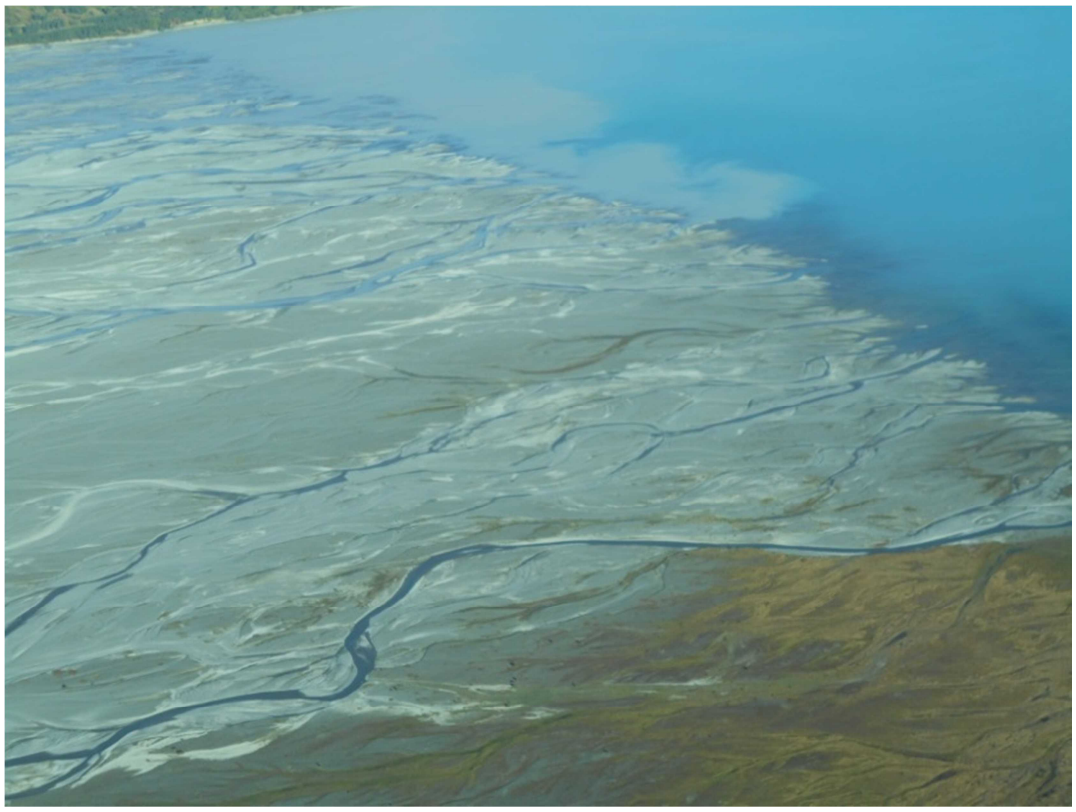
そして、今回の最大の見物、空からマウントクックの遊覧飛行です。小さなセスナ機で約１時間の空中散歩です。窓側１列の座席で飛び立つとすぐに、氷河に覆われた峰々、しっかりマウントクックも見れました。天候に恵まれ、青空と白い氷河と切り立った岩峰が圧巻でした。

セスナ機で空からマウントクックを観ました

眼下には巨大なタスマン氷河が横たわっていた

マウントクックの雄姿

空から観た淡い青色のテカポ湖



テカポ湖に幾重にも注ぎ込む溶け出した氷河が巨大な扇状地を創っていた

パイロットと全員撮影

今回の遊覧飛行はオプショナルツアーなので、１２人だけが参加しました。５万円程度かかりましたが、しっかり元が取れました。

その後、ホテルに向かいました。食事後、ホテル近辺を散策し、満天の星が輝く夜空を見て、天の川にある南十字星を皆で探しました。どれが南十字星か、なかなか確認出来ず、大いに楽しめました。

◇５日目

　朝食後、１１時の出発まで、我々８人で約２時間程度マウントクック方面に散策しました。欧米人ハイカーや観光の中国人らしき人達も沢山散歩していました。草原の中、曇り空の下、楽しくハイキングが出来ました。

マウントクック国立公園、皆でハイキングを楽しむ

皆でマウントクックを観る

そして、また４時間半のバス旅の始まりです。車窓は相変わらす、大草原に羊、牛の放牧が続きました。

昼食の為に、途中のレストランに入りました。そこは地元の農家レストランで、ワーキングホリデーで働いている日本人の学生さんは日本語で昼食の案内をしてくれました。昼食はビフテキで好きな大きさのニュージーランド牛のブロックを目の前で焼いてくれました。デザートはバニラアイスでしたが、とにかくデカかった！

昼食後は、農家のご主人による羊の毛刈りショーでした。専用のバリカンとハサミで手早く刈り上げ、あっと言う間に丸裸の羊になりました。その後は屋外で子羊にミルクあげをして、牧羊犬の見事な羊の統制能力を見せて頂きました。とても盛り沢山のランチとなりました。

その後、バスで移動中、お土産店に立ち寄りました。ここでも、日本人学生に日本語でしっかり説明して頂き、試食を楽しみ、お土産もゲット出来ました。
ようやく宿泊地のクイーンズタウンに着きました。

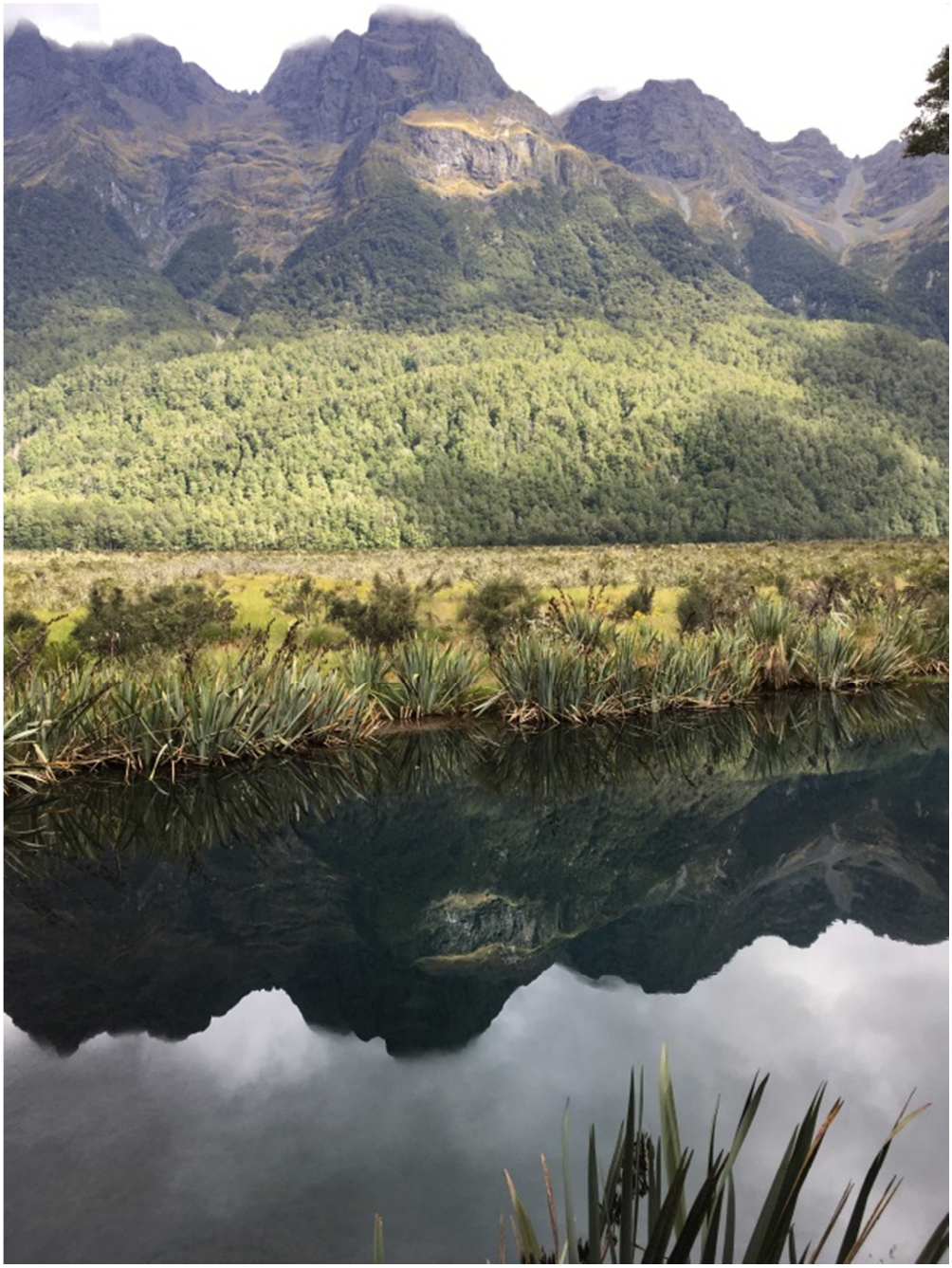
氷河と一体となった景色を堪能できるワカティプ湖

避暑地のようで賑わっていました。ホテル到着後、夕食の為、バスとロープウエーを乗りついで夕食会場に着き、ここでも、ビュフェ方式の夕食でした。

ホテルに帰って来たのは２２時を越えていました。それでも日没時間が２１時頃なので１日を有効に使い切った感じがしました。

◇６日目

　ホテルで朝食後、またも６時間のバス旅です。最南端のミルフォードサウンドに向かいます。途中に湖面に山脈が写るミラーレイクに立ち寄りました。



ミラーレイク、鏡のように景色を反射、水の透明度がピカイチ

激流の流れてくる小石で岩が丸くえぐり取られた奇岩が並ぶキャズムも訪れました。

キャズム地方にある浸食でできた石の芸術

小雨の中、国立公園のミルフォードサウンドに到着後、フィヨルドクルーズに乗船。

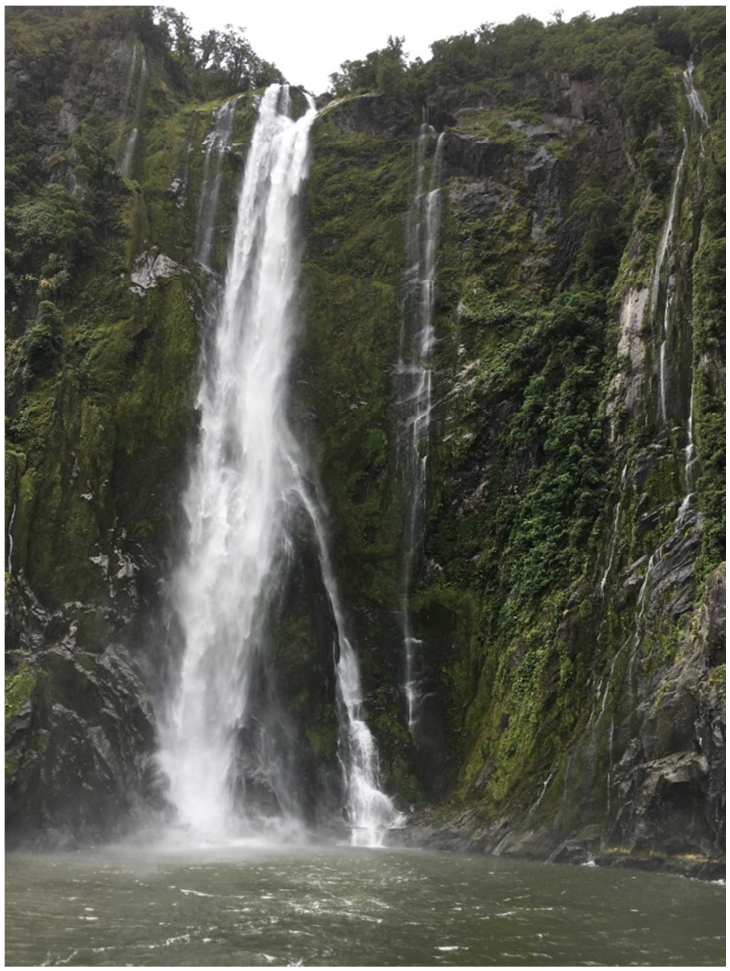
ニュージーランド国旗を掲げてフェリー遊覧

遅めの昼食はなんと日本の幕の内弁当でした。日本語の箸紙、味噌汁、エビフライ、お寿司など完全な日本食で、日本の味を楽しめました。

用意された完全な日本の幕の内弁当（味噌汁付）

甲板に出ると急峻な海岸線。途中、野生のオットセイが岩の上でのお昼寝。直接流れ落ちる幾筋もの滝も壮観でした。

野生のオットセイ、岩の上で日向ぼっこ



山から直接海に流れ込むフィヨルド地形の醍醐味

下船後また、６時間掛けての帰還でした。

７千万頭の羊の放牧

◇７日目

　いよいよ日本に帰る為のスケジュールが始まりました。クイーンズタウンから空路でオークランドに向かいます。オークランドに到着後、空港近くのレストランでビーフバーガーの昼食を頂きました。とても美味しかった。

　その後、ハーバーブリッジを渡り、フェリーで中心地のデボンボート行き、日本人向けの有名なおみやげ店、市内散策をして楽しみました。そして、ホテルで牛肉の煮込みの夕食を頂きました。

◇８日目

　日本に帰る日です。５時半にモーニングコール、６時半出発。外は薄暗い中の出発で、８時にはオークランド空港に到着し、９時５０分発のニュージーランド航空で成田空港には当日の１７時に到着しました。

　機内ではラグビーのオールブラックスの２軍らしき屈強な輩が２０人位乗り込み、びっくり。機内ではＣＡに変わって飲物サービスして頂き、楽しい、飽きない機内となりました。